

あなたの健診結果をチェックしてください

がん検診	胸部検診	肺がん、肺結核、胸水、気胸などの肺疾患や心肥大の有無を調べる検査です。
	胃部X線	バリウム（造影剤）を飲んで食道・胃・十二指腸の造影を行い、ポリープ、潰瘍、腫瘍などの有無を調べます。
	大腸（便潜血）	便に血液が混ざっていないか検査します。大腸ポリープ、大腸がん、痔の出血などで陽性（+）になります。
	前立腺（PSA検査）	血液中の前立腺特異抗原（PSA）を調べます。前立腺肥大、前立腺がんなどで高値になります。
生理学的検査	心電図	心臓の電氣的变化を記録し、不整脈、心筋梗塞、心肥大などの有無を調べます。
	腹部超音波	胆のう、肝臓、脾臓、腎臓、脾臓、腹部大動脈を中心に腫瘍や結石などの異常がないか調べます。体型や体内の状況により全域を観察できないことがあります。特に脾臓は見えにくくなります。
	聴力	1000Hzの低音と4000Hzの高音が聞こえるかを調べます。所見ありの（聞こえない）場合は中耳炎や難聴などが疑われます。
	視力	裸眼視力または矯正視力を測定します。低下の場合は近視や遠視、眼の病気などが疑われます。
	眼底	眼底（眼の内側）の血管や網膜、視神経を調べる検査です。眼の疾患、高血圧や糖尿病による眼の合併症、動脈硬化の程度などがわかります。
	眼圧	空気圧により眼球の内圧を測定します。緑内障の早期発見に有効な検査です。
	肺機能	肺の容積や換気機能を調べます。異常値の場合は喘息やCOPDなどが疑われます。
	骨量	踵の骨量を超音波で測定し、若年成人比較（20～44歳の平均値と比較して％で表示）で判定します。90％以上（①～③）は異常なし、80～90％未満（④）は要経過観察、80％未満（⑤）では骨粗鬆症が疑われます。
身体計測	身長体重BMI	身長、体重を計測し体格指数BMI { 体重（kg）÷身長（m）÷身長（m） } を算出します。統計的にBMIが22前後の人が最も病気になりにくいといわれています。肥満は生活習慣病の原因となり、BMIが25以上の場合は注意が必要です。
	腹囲	内臓まわりの脂肪の蓄積を測定します。基準値以上の場合は内臓脂肪面積が100㎤以上に相当し内臓脂肪型肥満が疑われます。
血圧	血圧	血液が流れる際に血管の壁にかかる圧力を調べます。高血圧を放置すると動脈硬化が進行し、脳卒中や心筋梗塞、腎障害の原因になります。
尿一般・腎	尿蛋白	陽性（+）の場合、腎障害や腎炎などが疑われます。発熱時や過激な運動で陽性になることもあります。
	尿潜血	陽性（+）の場合、腎臓、尿管、膀胱等泌尿器系の疾患（炎症、結石、腫瘍など）が疑われます。
	クレアチニン	アミノ酸の一種であるクレアチンが代謝された後の老廃物で、腎機能障害時に上昇します。
	eGFR	クレアチニンより精度の高い腎臓機能の指標です。数値が低いと腎臓の機能が低下していることを意味します。
代謝	尿酸	プリン体が代謝される際に生じるもので、飲酒や肉食、腎機能障害時に上昇します。高い状態が続くと、結晶として関節に蓄積し痛風発作と呼ばれる関節痛を起こしたり、腎結石の原因になることがあります。
糖代謝	血糖	血液中のブドウ糖の濃度を調べる検査で、数値が高い場合は、糖尿病、脾臓がん、ホルモン異常などが疑われます。
	HbA1c	HbA1cは、ブドウ糖と結合した赤血球ヘモグロビンの割合です。過去1～2ヶ月の血糖の平均的な状態を反映するため、糖尿病患者の血糖値コントロールの評価に用います。
	尿糖	糖尿病などにより血糖値が高値になると尿糖が陽性（+）となります。
脂質	HDLC	善玉コレステロールといわれるもので、血液中の悪玉コレステロールを肝臓に運び、動脈硬化を予防する働きがあります。低値は脂質代謝異常、動脈硬化が疑われます。
	LDLC	悪玉コレステロールといわれるもので、肝臓で合成されたコレステロールを末梢へ運びます。LDLコレステロールが多いと動脈硬化を進行させ、脳梗塞や心筋梗塞を起こす危険性を高めます。
	中性脂肪	人間の体を動かすためのエネルギー源ですが、使い切れずに余ったものが肝臓や脂肪組織に蓄えられ、数値が高くなると動脈硬化を進行させます。低いと、低βリポ蛋白血症、低栄養などが疑われます。
肝機能	AST、ALT	いずれもアミノ酸を合成する酵素です。主に肝臓に多く含まれているため、数値が高い場合はウイルス性肝炎、脂肪肝、肝臓がん、アルコール性肝障害などが疑われます。ASTのみが高い場合は心筋梗塞、筋肉疾患などが考えられます。
	γGT	胆道系の酵素で、肝障害以外に胆石や胆道閉塞性疾患、脾疾患などで上昇します。アルコール性肝障害では、禁酒によって値が改善します。
脾	血清アミラーゼ	脾臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、脾臓や唾液腺に炎症がある時などに上昇します。
血液一般	赤血球数 ヘモグロビン ヘマトクリット	赤血球中のヘモグロビンは酸素を全身の組織に運搬し、二酸化炭素を運び出すという重要な役割を担っています。ヘマトクリットは血液中の赤血球の割合を表します。いずれも貧血を調べる検査で、鉄分の摂取不足や出血、悪性腫瘍の存在で減少することがあります。
	白血球数	白血球は細菌などから体を守る働きをしています。数値が高い場合は炎症、腫瘍の存在が疑われ、喫煙者も高値になる傾向があります。少ない場合は、ウイルス感染症、再生不良性貧血などが疑われます。
	血小板数	血小板は出血部位に付着・凝集して止血する役割を担っています。減少すると出血傾向、増加は血栓形成の原因となります。血液疾患や慢性肝炎、肝硬変の場合に低下することがあります。